

- 2023年8月22日の新規制要件に関する事業者意見の聴取に係る会合にて、現在了承済みの2024年度までの技術評価計画に、2規格を追加することをNRAに提案。その際に、**技術評価希望規格の優先順位を示すことを要請されている。**
- また、**2024年度までに技術評価を希望する規格の優先順位を提示する。**→スライド 1
- 上記に加え、**参考として現時点での2025年度以降に技術評価を希望する規格を提示するので、今後2025年度以降の技術評価計画策定時等に事業者と調整頂きたい。**→スライド 2 ~ 7

## <2024年度までの技術評価計画（既了承分）>

- ① 原子力発電所耐震設計技術規程（JEAC 4601-2021）
- ② 設計・建設規格（JSME S NC1-2020）（技術評価中）
- ③ 材料規格（JSME S NJ1-2020）（技術評価中）
- ④ 溶接規格（JSME S NB1-2020）（技術評価中）
- ⑤ 設計・建設規格 事例規格 発電用原子炉設備における「応力腐食割れ発生の抑制に対する考慮」（JSME S NC-CC-002）（技術評価中）

## <以下の2規格を追加希望（8/22提案分）>

- ① 原子炉構造材の監視試験方法（JEAC 4201-2007（20xx年追補版））
- ② 原子力発電所用機器に対する破壊靱性の確認方法（JEAC 4206-2007（2023年追補版））

# 2024年度までに技術評価を希望する学協会規格の優先順位

優先順位	規格名	制定時期	技術評価理由
1	原子炉構造材の監視試験方法 (JEAC 4201-2007 (20xx年追補版))	2024年3月	最新の技術的知見・検討結果に加えて、安全規制に関する検討チームにおける議論の内容他を速やかに実機に適用していくことは、原子炉圧力容器の健全性評価の信頼性向上や、審査の効率化に資するものと考えます。
2	原子力発電所用機器に対する破壊靱性の確認方法 (JEAC 4206-2007 (2023年追補版))	2023年12月	先般のJEAC4206-2016の技術評価にて概ね妥当と評価頂いている「原子炉容器の加圧熱衝撃評価における仮想欠陥寸法の適正化」について、具体的条件を明確にして追補版として整理した。また特別点検等により蓄積された知見を速やかに実機に適用・反映することで信頼性向上や、審査の効率化に資するものと考えます。
3	原子力発電所耐震設計技術規程 (JEAC 4601-2021)	制定済	今後の審査で適用予定の新たな研究成果などの知見に基づく評価手法 (減衰定数など) についての規定が含まれている。なお、現在「耐震設計に係る工認審査ガイド」で引用されているJEAG4601 (1984、1987、1991版) は、鉛直地震力を動的に扱っていないなど、現在の規制基準の要求に整合しない部分がある。各審査毎に研究結果内容と当該プラントへの適用性の説明を行う場合に比べ、審査の効率化に資するものと考えます。